

2024年6月4日

2023年度収支決算の概要について

青山学院財務部

2023年度決算報告書（学校法人会計及び収益事業部会計）は、2024年5月30日開催の理事会で承認されましたので、ここにご報告いたします。決算の詳細は、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表等をご覧ください。

決算のうち事業活動収支の概要をご説明いたします。事業活動全体では、事業活動収入計402.9億円、事業活動支出計368.6億円により、基本金組入前当年度収支差額は34.2億円の収入超過となりました。

事業活動別では、教育活動収支差額は50.9億円の収入超過です。教育活動収入の主なものとして、授業料等の学生生徒等納付金290.9億円は、大学の学費改定の年次進行効果や学生数の増加などにより、学院全体で前年度比5.7億円の増収となりました。経常費等補助金37.7億円は大学の経常費補助金が例年並みに戻ったことなどにより前年度比4.8億円の増収となりました。雑収入には、恩給拠出金回収金17.9億円が計上されていますが、これは年金信託契約の解約に伴い、年金（恩給）資産が返戻されたことによるものです。教育活動支出のうち、人件費189.4億円は前年度比1.6億円の増加となりました。教育研究経費139.2億円及び管理経費12.7億円には、大学修学支援新制度による奨学費計上分5.8億円、ICTネットワークシステム経常経費5.1億円、マクレイ記念館（大学図書館棟）什器・自動書庫用コンテナ等物品購入費5.1億円などが含まれています。光熱水費10.5億円は、当初電気料金がさらに高騰することを見込んでおりましたが、予想を下回ったことで、予算比では4.8億円の減少、前年度比では0.8億円の微減となりました。

教育活動外収支差額は6.3億円の収入超過となり、教育活動収支差額と教育活動外収支差額の二つを合わせた経常収支差額は57.3億円の収入超過となりました。

経常的な収支を除く特別収支差額では、特別支出に年金引当金（恩給支給の必要額）の期首時点の金額25.7億円を過年度修正額として計上しており、23.1億円の支出超過となりました。経常収支差額と特別収支差額の合計が、基本金組入前当年度収支差額34.2億円になります。

このほか、資金収支計算書では、当年度に完成したマクレイ記念館（大学図書館棟）関連の費用が建物、構築物、備品等の各科目に計上されているほか、幼稚園園舎建替計画、相模原キャンパス空調用熱源設備更新、大学相模原野球場人工芝敷設などが計上されています。また、万代基金（寄付金）の一部を、各学校における教育研究目的の支出に充てるため、新たに特定目的引当資産への繰入を行っております。

2024年度は11月に学院創立150周年を迎え、重要な節目の年となります。青山学院が歩んできた歴史を振り返り、さらに未来に進むための様々な記念事業が予定されております。2025年3月には幼稚園園舎建替計画の完了、2025年5月には青山学院ミュージアムの開館が予定されており、学院の一貫教育の基盤がより一層整うこととなります。これからの「青山学院未来構想」の実行計画を支えていけるよう、財務基盤の強化に引き続き努めてまいります。

以上